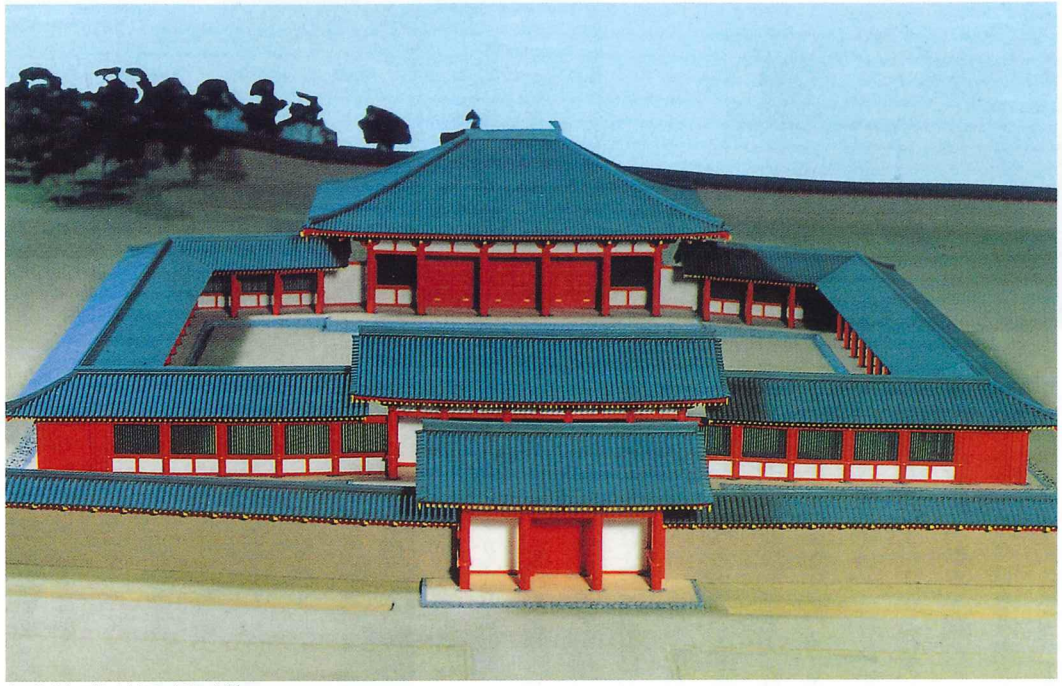
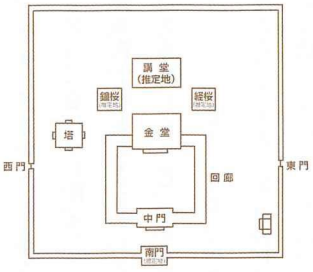
国の華といわしめた国分寺
はなやかな天平文化が花開いた時代
但馬では日高町に建立された

但馬国分寺

但馬国分寺●TAJIMAKOKUBUNJI


主要伽藍復元模型（南門、中門、金堂）



但馬国分僧寺の伽藍配置

日本が国として成立したころ。古代王権が702年大宝律令を諸国に施行し、律令国家の道を歩み始めた。710年平城京（奈良）へ都が移り、はなやかな天平文化が花開いた奈良時代。国内を六十余国に分け、それぞれの国に国衙と呼ばれる役所を置き、都から役人を派遣して地方を支配していた。私たちが住む但馬は当時から「但馬国」と呼ばれていた。（生野町の一部を除く）

天平13年（741）、聖武天皇は五穀豊穣、国家鎮護を祈るため、全国六十余りの国ごとに、巨大な国分寺、国分尼寺の建立を命じた。このころ、国内で疫病が流行、凶作にも見まわれ、社会が不安定な状態だったからだ。これらの災害を防ぐために、「金光明最勝王経」と「法華経」の写経と、国分寺は国の華であるから、国内の必ず良いところを選んで建立すること、国ごとに七重塔をつくり、聖武天皇から配布された金泥（漆でといた金粉）で書いた「金光明最勝王経」を塔に安置させることなどが命ぜられた。

但馬国では、但馬国府があったとされる現在の日高町に建てられた。当時建てられた但馬国分寺は、現在残っていない。しかし、発掘調査のなかでいろいろなことがわかってきている。

国分寺建立は大事業なだけに諸国とも建設の進行ははかばかしくなかった。但馬国分寺も例外ではなく、765～6年ごろ全部完成したと考えられている。

国分寺は普通、講堂、金堂、中門、南大門が南北に並び、周囲を溝や築地で囲んである。但馬国分寺跡では昭和48年から現在まで21回にわたる発掘調査がおこなわれ、金堂、塔、中門を確認。また、寺域の北東と南東の端を示す溝や築地跡の発見で、寺域が一町半（約160メートル）四方と一般の二町（約220メートル）より小ぶりだったこともわかった。

但馬国分寺跡の発掘調査でもっとも多く出土している遺物は瓦である。但馬国の総力を結集した大伽藍だけに量は膨大。浅く曲がった平瓦と土管を縦に割ったような丸瓦がほとんどを占めるが、全国でも珍しい当時の釣瓶など貴重なものが出土している。他にも、奈良・平安時代のものとしては、全国でも最大級の大井戸（縦横約170センチ四方、深さ270センチ）も見つかっている。

この井戸に使われたヒノキの井桁材に樹皮が残っていたことから、その木を伐採した年が763年だと判明した。これは年輪年代法と呼ばれる方法で、科学の発達によって、さまざまなことが解明されている。

もちろん他にも、土師器・須恵器などの土器類、風鐸、銅製品、鉄釘、柱根、くし、履き物のゲタなどいろいろなも

国分寺
Kokubunji

日高町 Hidaka-Cho

国分寺と地名表記された看板

日高町国分寺に残る但馬国分寺趾

但馬国分寺趾に残っている塔跡の礎石

国分寺跡に残る道しるべ
石碑にこくぶんじの文字が残っている

塔跡の北側の発掘調査のようす

日高町山本に残っている但馬国分尼寺の礎石

国分寺跡から出土した土器、天平神護、神護景雲年間の木簡と共伴

のが出土している。その中には、古代の文書である「木簡」もあった。木簡は木の札に墨で文字を記したもの。但馬では、昭和52年に全国の国分寺でははじめて、但馬国分寺跡で発見されたのを皮切りに、但馬国府推定地の川岸遺跡と深田遺跡、祢布ケ森遺跡（以上日高町）、福成寺遺跡、倉見遺跡（以上豊岡市）、砂入遺跡、袴狭遺跡（以上出石町）で出土している。

また、人形、斎串、馬形なども出土している。人形とは細長い薄板材に切り込みを入れるなど加工し、頭、胴、手足を表現。顔の部分には刀子のような工具で節を入れ目鼻をつけている。斎串は同様の板材の上端にくびれをつくり、下端を剣先状に削ったもので、どちらも祭祀的な性格を持った木製の道具である。

古代人は人形に心身の汚れや病気を移しかえ、川に流し去ることで心身を浄め、病気が治ることを祈ったと思われる。斎串は人形とともに出土することが多く、但馬国分寺跡から出土したものは、人形同様に目鼻をつけたものさえ見つかっており、用途は人形と密接な関係があるようだ。ただ、斎串は先がとがっていることから、治水などを願って川岸に突き刺して並べたとの見方もある。

日高町だけでなく、出石町袴狭の田んぼからも、たくさんの人形などが出土した。これは、奈良や京都の古都跡からの出土量をはるかに超えている。但馬国全体の総数は他国と比べケタ違いに多い。

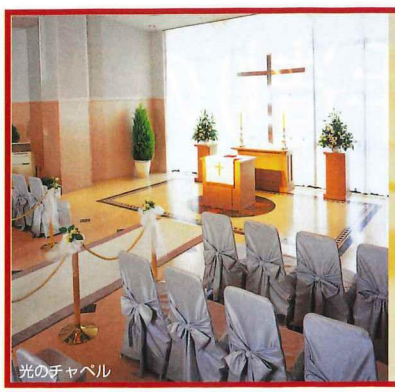
このようなお祓いの儀式は、奈良時代に宮廷ではじまったとされ、天皇は金、皇太子は銀人形を使ったと文献にはある。都では6月と12月に公的行事として実施したようだ。但馬での出土量を考えると、但馬国でも宮廷と同じようにお祓いの儀式がおこなわれていたことを示している。

国の全勢力をかたむけて建立された国分寺であったが、平安中期以降、律令制の崩壊とともに、しだいに衰退の一途をたどることとなる。

但馬国分寺はどうなったのだろう。続日本紀の宝亀8年（777）秋7月の項に「但馬の国国分寺の塔に震す」とあり、落雷に見舞われたことが記されている。その後、天正8年（1580）に豊臣秀吉が但馬攻略をした際に、堂を消失してしまい、のちに国中を托鉢して宝暦13年（1763）に堂を再建したことが、現在の護国山国分寺（日高町国分寺）に残された棟札に書かれている。

古代のロマンを感じさせる国の華「但馬国分寺」は日高町にあった。謎を解くカギは地中に眠っている。

協力：日高町教育委員会


光のチャペル

時を奏でるウエディング

光のチャペル完成記念
シンフォニープラン

大切な人と、大切な時間を。
木漏れ日が揺れ、光あふれるヴァージンロードを、
一番大切な人と歩きたい。
あなたにとって大切なこの日を、
大好きな音楽と花で演出。
かけがえのない時間と想い出が、
きっとここで見つかります。

50名様（税金別）
¥980,000
お一人様追加ごとに
¥15,000（税金別）

ご予約承り中

時を奏でるホテル
〒668-0263 兵庫県出石郡出石町福住450番地
TEL0796-53-1111 FAX0796-52-6111